

(様式 1-3)

白河市定住緊急支援事業計画に基づく事業等個票

平成 25 年 7 月時点

※本様式は 1-2 に記載した事業ごとに記載してください。

NO.	9	事業名	しらかかの森スポーツ公園テニスコート整備事業	事業番号	B-1-1
交付団体	白河市	事業実施主体	白河市		
総交付対象事業費	142,972 (千円)	全体事業費	142,972 (千円)		
事業概要					
<p>白河市の西端に位置するしらかかの森スポーツ公園は、テニスコートのほか、野球場 2 面、多目的広場、ゲートボール場があり、多くの市民に利用されている。白河インターチェンジから車で 10 分とかからず、アクセス性も高く大型駐車場（約 200 台）が整備されていることから、多くの市民に利用されているだけでなく、県レベルの大会も数多く開催され、県内における屋外スポーツの中核的施設となっている。</p> <p>現在、当該公園の管理は「NPO 法人しらかかわスポーツ施設利用者会」が指定管理者として市から受託し、施設の貸し出し業務、修繕等を行っているところである。</p> <p>当該公園内のテニスコートは、砂入り人工芝で 11 面が整備されており、小学生から一般まで広く利用されており、年間をとおして開催される 30 近い大会のうち、小学生・中学生・高校生を対象とした大会は 12 を数え、全大会参加者（7,582 人）のうち、61%にあたる 4,652 人は高校生以下の子どもが占めている。</p> <p>震災直後は原子力災害の影響もあり利用者が激減したが、徐々に震災前の生活を取り戻し市民等がスポーツを再開し始めた平成 24 年 7 月には、故障していた夜間照明設備を改修し、夜間使用可能なコートが 4 面から 8 面に増えたことにより、夜間の利用者が一気に増加した。このことから、今では市民以外にも県内各地の高校（特に県中地区及び県南他町村）のテニス部員等が大会以外でも利用するようになっている。</p>					
【 利用状況 】					
	年度	利用者数	高校生以下	高校生以下平成 22 年度比較 (%)	
	平成 22 年度	21,413 人	15,187 人	-	
	平成 23 年度	16,366 人	11,383 人	△3,804 人 (△25%)	
	平成 24 年度	22,821 人	16,622 人	+1,435 人 (+9.4%)	
<p>事業実施後は、市民スポーツ教室の「初・中級者テニス教室」、「ジュニアテニス教室」などの活動が更に充実されるとともに、屋内施設で開催していた「初心者ソフトテニス教室」についても、今後は当該施設で開催するよう働きかけるなど、施設の利用促進に努める。また、小中学生を対象とした施設改修記念大会などのオープニングセレモニーを行うとともに、有名選手を招聘したテニス講習会などを開催し、施設の周知を図る。</p> <p>また、本事業によりテニスコートが 12 面整備されることで、通常の練習に加え、各種大会の運営も充実が図られ、その効果は白河市に留まることなく県内全域に及ぶものと思料されることから、白河市の子どもたちはもちろん、県南地域、ひいては県内の子どもたちの昼夜を問わない運動機会の確保を図ることができる。</p> <p>なお、施設改修後も利用者が使いやすいように、引き続き指定管理者と協議し管理運営を行っていく。</p>					
【 事業概要 】					
①砂入り人工芝テニスコート張替え：11 面（7,944 m ² ）					
②砂入り人工芝テニスコート新設：1 面（619 m ² ）					
③夜間照明設備の増設					
【 白河市震災復興計画における位置付け 】					
○第 6 章『基本目標 5 魅力ある地域と人づくり』「主要施策 5-2 子育て・教育環境の整備」					
子どもたちが身心ともに健やかに成長できるよう、学校や公園など、屋外でも安心して遊び、運動ができる環境の整備を図る。					
○第 6 章『基本目標 5 魅力ある地域と人づくり』「主要施策 5-3 生涯学習・スポーツの振興」					

市民の身心の健康づくりとスポーツ活動を通したきずなづくりを推進するため、スポーツ教室やスポーツ大会など、多様な交流機会の創出と普及、啓発を図る。

※当該事業を復興ビジョン、復興計画、復興プラン等に位置付けている場合は、該当箇所及び概要も記載してください

人口の流出及びそれにより生じている地域の復興における支障との関係

当市の平成 25 年 5 月 1 日現在の人口は 62,971 人で、原子力災害前の平成 23 年 3 月 1 日現在と比較し 1,618 人の転出超過となっている。また、全国避難者システム等を基に市が独自にとりまとめた避難者数(以下「市外避難者数」と言う。)は、平成 25 年 4 月 5 日現在において 169 世帯 467 人を計上し、うち 199 人(42.6%)が高校生以下となっている。なお、平成 22 年時点の国勢調査における当市の人口は 64,704 人で、平成 24 年 10 月時点の市外避難者数は 156 世帯 431 人(うち高校生以下が 198 人)となっている。

自主的避難者の中には、仕事の都合等により二重生活を余儀なくされている世帯もあり、その経済的・精神的負担は彼らの生活再建の足枷となっているほか、放射線の安全基準の受け止め方が個人により異なることから、自主的避難者と市内に残る市民との間に生じている感情面での軋轢も、本来市民が一丸となって取り組むべき復興への歩みにとって大きな支障になっている。

また、平成 24 年度の文科省『学校保健統計』の速報結果において、福島県内の肥満傾向児の出現率は殆どの年齢で全国平均を上回り、特に幼稚園児及び小学生の肥満傾向が著しい結果となっている。

市でとりまとめた平成 23 年度と平成 24 年度の児童生徒の体力・運動能力の状況を比較しても、20m シヤトルラン、小学生の立ち幅とび、中学生の持久走などで前年を下回る結果が目立っている。

これは、市内に残る子育て世帯においても、原発事故に伴う環境汚染に対する不安が拭かれておらず、自主的に外遊びの時間を制限していることなどに起因するものと思料される。

このことから、しらかかの森スポーツ公園テニスコートを整備することにより、小学生から高校生までが安心して屋外スポーツができる機会・環境を創出する。

※効果促進事業である場合には以下の欄を記載。

関連する基幹事業

事業番号	
事業名	
交付団体	

基幹事業との関連性

--

(様式 1-3)

白河市定住緊急支援事業計画に基づく事業等個票

平成 25 年 7 月時点

※本様式は 1-2 に記載した事業ごとに記載してください。

NO.	10	事業名	東風の台運動公園テニスコート整備事業	事業番号	B-1-2
交付団体	白河市	事業実施主体	白河市		
総交付対象事業費	78,719 (千円)	全体事業費	78,719 (千円)		
事業概要					
<p>白河市の西端に位置する東風の台運動公園は、テニスコートのほか、多目的グラウンド、体育館、ふれあいプール（幼児用屋内流水プール、屋外 25m プール併設）、弓道場、キャンプ場等が整備されており、隣接地には多世代交流施設（温泉館、図書館、文化センターの複合施設）や保健センター（福祉施設）、更には白河市立東中学校など幅広い分野の施設が配置されている総合運動公園であり、白河市東地域の拠点施設として多くの市民に利用されているほか、大型駐車場（約 500 台）も完備していることから、県レベルのソフトボール大会等が毎年開催されるなど、地域内外におけるスポーツの拠点施設となっている。</p> <p>当該公園内には、ハードコート（ゴム張り）が 3 面、クレーコートが 2 面の合計 5 面のテニスコートが整備されており、主に隣接する中学校の部活動の活動拠点及び地域の小中学生スポーツ少年団の活動拠点として利用されているほか、近隣市町村の子どもたちが参加する大会等も毎年開催されている。</p> <p>震災後も施設利用者は増加しているが、震災のあった平成 23 年度は中学生以下の利用者が減少（特にナイター利用者は半数以下）するなど、地域の子どもの運動機会の減少は否めない傾向にあったが、市や地域で実施している除染活動が実を結び、地域の子どものうちも少しずつ屋外施設の利用頻度を高めている状況となっている。</p>					
【 利用状況 】※（ ）内はナイター利用者数					
年度	利用者数	中学生以下	中学生以下平成 22 年度比較		
平成 22 年度	6,505 人	4,843 人 (1,989 人)	—		
平成 23 年度	7,917 人	4,779 人 (924 人)	△ 64 人 (△1,065 人)		
平成 24 年度	9,818 人	5,248 人 (1,943 人)	+405 人 (△ 46 人)		
<p>本事業により、自主的に外遊びの時間を制限するなど不安が払拭されず運動する機会が十分に確保できない地域の子どもたちが安全で安心して活動できる環境を整備し、平日はナイター併用での利活用、祝祭日は大会やスポーツ教室の開催を推進していくことで、近隣他市町村を含む地域の子どもの運動機会を確保することを目標とする。</p> <p>また、施設の管理運営については、市民の文化スポーツの拠点施設である東風の台運動公園全体を管理運営しているシルバー人材センターに引き続き委託し、施設利用者や利用者層の記録管理を行い、利用者が使いやすい施設となるよう管理運営者と協議していくこととする。</p>					
【 事業概要 】					
東風の台運動公園内のテニスコート 5 面を砂入り人工芝テニスコートに張替える。					
【 白河市震災復興計画における位置付け 】					
○第 6 章『基本目標 5 魅力ある地域と人づくり』「主要施策 5-2 子育て・教育環境の整備」 子どもたちが身心ともに健やかに成長できるよう、学校や公園など、屋外でも安心して遊び、運動ができる環境の整備を図る。					
○第 6 章『基本目標 5 魅力ある地域と人づくり』「主要施策 5-3 生涯学習・スポーツの振興」 市民の身心の健康づくりとスポーツ活動を通したきずなづくりを推進するため、スポーツ教室やスポーツ大会など、多様な交流機会の創出と普及、啓発を図る。					
※当該事業を復興ビジョン、復興計画、復興プラン等に位置付けている場合は、該当箇所及び概要も記載してください					
人口の流出及びそれにより生じている地域の復興における支障との関係					
当市の平成 25 年 5 月 1 日現在の人口は 62,971 人で、原子力災害前の平成 23 年 3 月 1 日現在と比較し					

1,618 人の転出超過となっている。また、全国避難者システム等を基に市が独自にとりまとめた避難者数（以下「市外避難者数」と言う。）は、平成 25 年 4 月 5 日現在において 169 世帯 467 人を計上し、うち 199 人（42.6%）が高校生以下となっている。なお、平成 22 年時点の国勢調査における当市の人口は 64,704 人で、平成 24 年 10 月時点の市外避難者数は 156 世帯 431 人（うち高校生以下が 198 人）となっている。

自主的避難者の中には、仕事の都合等により二重生活を余儀なくされている世帯もあり、その経済的・精神的負担は彼らの生活再建の足枷となっているほか、放射線の安全基準の受け止め方が個人により異なることから、自主的避難者と市内に残る市民との間に生じている感情面での軋轢も、本来市民が一丸となって取り組むべき復興への歩みにとって大きな支障になっている。

また、平成 24 年度の文科省『学校保健統計』の速報結果において、福島県内の肥満傾向児の出現率は殆どの年齢で全国平均を上回り、特に幼稚園児及び小学生の肥満傾向が著しい結果となっている。

市でとりまとめた平成 23 年度と平成 24 年度の児童生徒の体力・運動能力の状況を比較しても、20m シャトルラン、小学生の立ち幅とび、中学生の持久走などで前年を下回る結果が目立っている。

これは、市内に残る子育て世帯においても、原発事故に伴う環境汚染に対する不安が拭かれておらず、自主的に外遊びの時間を制限していることなどに起因するものと思料される。

このことから、東風の台運動公園内のテニスコートを砂入り人工芝に張り替えることにより、隣接する中学校の生徒を含む地域の子どもたちが安心して屋外スポーツができる機会・環境を創出する。

※効果促進事業である場合には以下の欄を記載。

関連する基幹事業	
事業番号	
事業名	
交付団体	
基幹事業との関連性	